

こすもスマイル 67号

発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和6年4月

～病院長のあいさつ～



新年度を迎え、ごあいさつ申し上げます。

初めに、今年元日に発生した能登半島地震の被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。今後の復興をお祈りいたします。小林市役所、当院（DMAT）からも支援派遣があり、スタッフの皆様には感謝いたします。

去年は新型コロナ感染症の第5類への移行で皆様には徐々に日常生活が戻り、我々は通常の業務にもどり、普通というありがたみを感じている方々もいるかと思えます。ただ相変わらずのコロナ感染、またインフルエンザ感染が続いており、感染予防は引き続き必要と考えています。

当院は、この地域の手術、救急等の急性期医療を担っています。2023年（1月～12月）の手術件数（消化器外科・泌尿器科・整形外科）は244件で2022年と比較して約20件増加し、救急車の受け入れ件数は894件と100件以上増加していました。当院職員も、それぞれが担当する現場で日々対応してくれています。当院の医療体制として、かかりつけ医との連携、外来予約制など皆様にご理解いただいていることに感謝いたします。今後のこの地域の人口の推移、高齢化などを考慮し、先を見据えた当院の医療体制づくりと同時に、現在の医療需要に対して適確な医療提供に努めていきます。

また患者の方々の御協力をいただき、研修医、各職種の実習性が当院で臨床経験を積むことができます。おかげさまで、本年度も多くの研修医、実習生派遣が予定されています。心から感謝いたします。彼らに魅力をもってもらえる医療の実践に努めたいと思います。

周囲の医療機関の先生方、職員の皆様には、当院の種々の事情をご理解いただいていることを感謝いたします。引き続きご理解、ご協力よろしくをお願いいたします。

2024年度もよろしくお願いいたします。

小林市立病院 病院長 徳田 浩喜

【理 念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します





栄養情報だより



臨床栄養室

皆さんは、台風が近づいたり、万一に備えてどのような準備をしていますか？
「食べ物」（備蓄食品）も大切な備えです。

右の写真は当院の患者さんや職員のための備蓄食品です。→
災害時は、3日～1週間分を栄養バランスにも配慮して準備しておくよう勧められています。



栄養バランスとは…

カップラーメンやパンばかりでは、栄養低下を招きます。
主食・主菜・副菜の組み合わせを意識して備蓄しましょう。

主食

パックご飯（湯せん可）
レトルトおかゆ
パン（長期保存タイプ）
乾パン、カップ麺

小さな子供さんやご高齢の方には、おかゆや粉ミルクがあるとよいです。

飲用の水の他に、調理に使用する水も忘れずに備蓄しましょう。

主菜

さばなど缶詰 シーチキン
カレーなどレトルトパウチ
牛乳（常温保存）粉ミルク
鮭フレークなど瓶詰

副菜

フリーズドライみそ汁
果物缶 野菜ジュース
ドライフルーツ
野菜チップ

ローリングストックで賢く備えましょう！

無駄なく食事に使えるよう、賞味期限を一覧にして目に付く場所にはりましょう

覚えておくと役立つ！ビニール炊飯

準備するもの：米、水、ビニール袋（耐熱100度以上）、計量カップ、なべ、皿（なべの底に敷きます）、カセットコンロ

〈作り方〉

- ① 米（1合）は、洗米し水気を切る。ビニール袋に入れ、水200ccを入れ、空気が入らないよう口を結ぶ。（空気があると浮いてしまいます）
- ② なべに耐熱皿を敷き、火にかける。沸騰したら火を弱め、米の入ったビニール袋を入れる。
（袋がお湯から出ないようにお湯はたっぷり）
- ③ 約30分間お湯がコトコト動く程度の弱火で湯せんし、火からおろして10分蒸らしたら完成。



地域医療支援病院とは

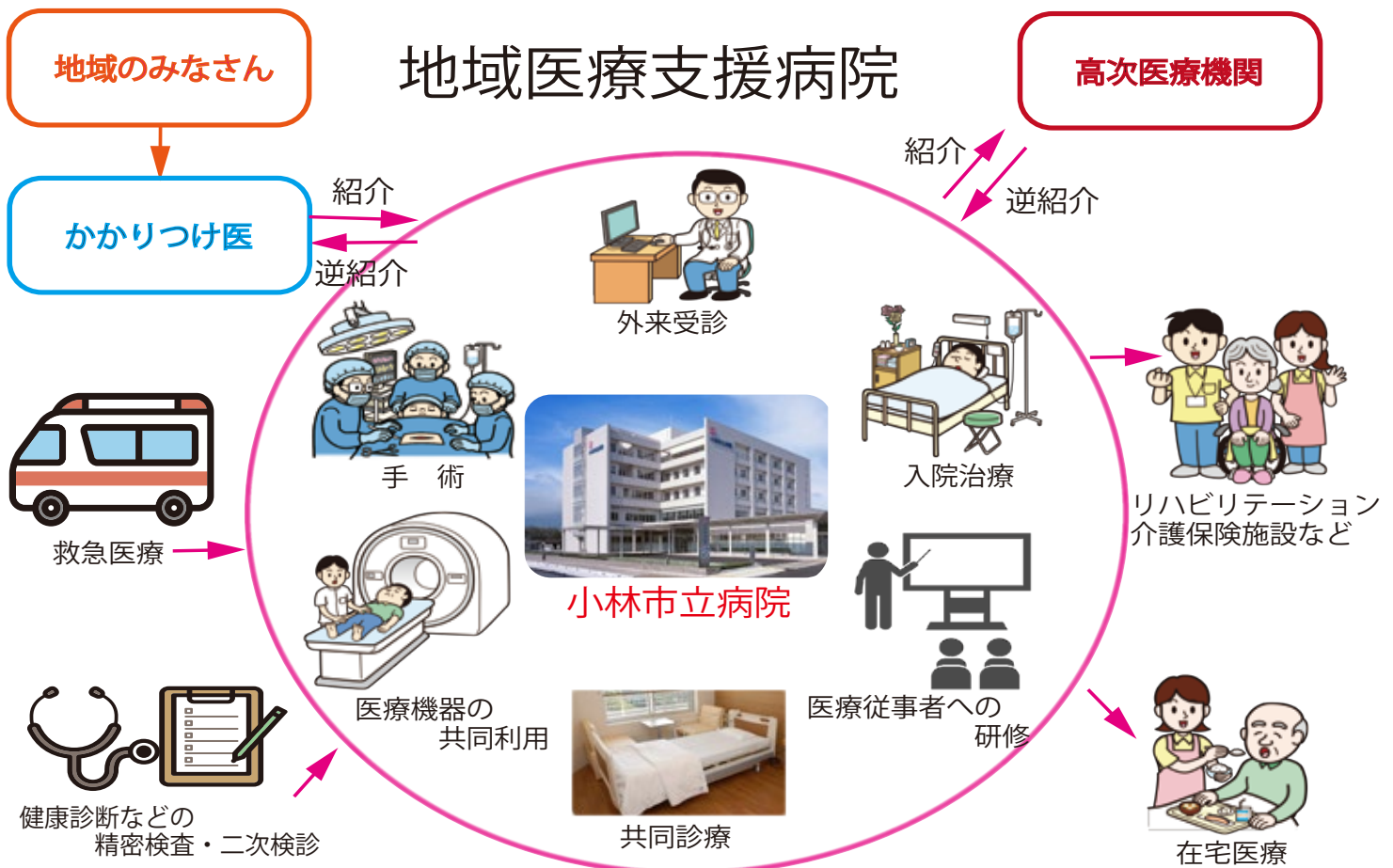
診療所や病院などの医療機関は、国の政策のもと、主に軽症の患者さんの診療は診療所、入院が必要な重い症状の患者さんの診療は病院という「役割分担」を行っています。

当院は、西諸医療圏の中核病院の役割として、二次救急や手術、専門検査や入院治療への特化を目指し、平成23年6月に地域医療支援病院に承認されました。

地域医療支援病院は、患者に身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点から、紹介患者に対する医療提供・医療機器等の共同利用の実施等を通じて、かかりつけ医を支援する能力を備え、地域医療の確保を図る病院として相応しい構造設備等を有するものについて、都道府県知事が個別に承認しています。

地域医療支援病院の主な役割

- ・ 紹介患者に対する医療の提供
- ・ 救急医療の提供
- ・ 医療機器の共同利用の実施
- ・ 地域の医療従事者に対する研修の実施



地域医療支援病院の役割を踏まえ、当院での診療は、原則としてかかりつけ医からの紹介予約制としています。今後も、地域の医療機関の先生方との連携をはかり、医療の質の向上を目指します。引き続き、地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

地域医療連携室

地域医療連携室紹介



医師事務作業補助者の紹介をします。

医師が行う業務のうち、事務的な業務をサポートする職種です。その呼称は病院によって様々で医療秘書や医療クラーク、メディカルアシスタントなどと呼ばれています。

業務内容としては基本的には診断書や診療情報提供書（紹介状）など医療文書の作成代行があります。電子カルテなどの診療記録への代行入力があり、これは医師の外来診察時などに同席して行います。

その他の業務内容としては、医療の質の向上に資する事務作業としてがん登録、麻酔記録、手術の症例登録（NCD）なども、手広く行います。

最後に行政への対応があり、これは厚生労働省などに報告する診療データの整理などを行っています。

実務経験のない方でも半年間の研修を受けながら医師事務作業補助者として働くことができます。子育て世代の方も平日のみ勤務で働きやすく、ライフワークバランスが取りやすい職場となっております。

私たちは医師が行う業務を医師の指示のもと代行で行っているため、その自覚を持ち日々の業務をしっかりと行っていきたくと思います。

医師事務作業補助者 橋本 美彩子

～西諸華道連盟の皆様から、すばらしいお花をいただきました～



スタッフのひとこと

入園、入学、就職と、それぞれのご家庭においても新しい門出をお迎えのことと思います。

私もこの春から職場の労働時間を短縮して、働き方改革をすることになりました。余裕ができる時間を、今まで支えてきてくれた家族のために、時には自分のために癒しの時間をとれたらと思っています。

そんな時間を楽しみに、支えてくださる皆様に感謝しながら今年度も頑張っていきたいと思っています。

退院調整看護師 岩田 マリ子



連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k_hosp4@city.kobayashi.lg.jp